

# 雑 報 欄

553.435/.497 : 550.8 (521.76) : 622.1

## 奈良縣吉野郡白銀村十津川村鑛床概査報告

昭和24年6月表題地域の含銅硫化鉄鉱床及び津川村のアンチモン鉱床を概査した報告である。

### 1. 白銀村附近

〔要旨〕 古生層と思われる千枚岩類、輝綠凝灰岩とそれを貫く蛇紋岩とよくなる。含銅硫化鉄鉱床は千枚岩を母岩とし、層理面に沿つて生成される事が多い。鉱石は微細な黄鉄鉱を主とし黄銅鉱を混え磁硫鉄鉱・金・銀を伴う。二次鉱物は斑銅鉱・孔雀石・銅藍また脈石として方解石・石英がある。採掘跡から考え、富鉄体の北端は断層に切れ、その先を発見せず廢坑となつたものと思われる。精密調査により断層關係を明かにし探鉱の要がある(八宝鉱山)。報文には大和鉱山・黒石鉱山・八宝鉱山の三鉱山を扱う。

〔内容目次〕 (1) 沿革, (2) 位置及び交通, (3) 地形, (4) 地質 (5) 地質構造, (6) 鉱床及び鉱床各説, (7) 品位, (8) 埋藏量。

550.8 : 553.3/9 (521.83) : 622.19

## 岡山縣下(御津郡北部)地下資源調査報告

〔要旨〕 地質は古生層の千枚岩質粘板岩と第三紀砂岩及び粘土、洪積礫層からなり、古生層を貫く閃雲花崗岩・黒雲母花崗岩・石英斑岩・石英粗面岩が存する。当地区の銅鉱床は古生層中の裂罅充填含銅石英脈で、多くは磁硫鉄鉱を主とし、黄銅鉱を密雜する程度である。珪石鉱床としては加茂鉱山は黒雲母花崗岩中の裂罅充填の含水鉛石英脈である。

調査鉱山の概略は次の如くである。

〔江興味銅山〕 御津郡江興味村 結論として鉄脈状鉱体が谷の水準から山体の中心に向つて傾斜しているため、斜坑或は堅坑を要するが、現在の鉄量を以ては事業は困難と考えられる。旧稼行現場から西へ露頭の延長が見られるから、新鉄体発見の可能性はある。

〔金倉銅山〕 御津郡新山村 犬切坑完成すれば、鉄量増

550.8 : 553.3/9 (521.83) : 621.19

## 岡山縣地下資源調査報告

昭和24年8月の調査結果で、本報告には(1)立正鑛石鉱山、(2)金川(黒鉛)鉱山、(3)佐野(磁硫鉄鉄)鉱

### 2. 十津川村附近

十津川村附近に於けるアンチモン諸鉱山の状況を報じている。調査鉱山は高津・林盛・大林・川栄・和洲・金泉・谷五・奥尾谷・月谷・その他二鉱山である。

〔要旨〕 地質は時代未詳の砂岩と粘板岩の互層よりなり、地域南部では角岩を夾在している。調査地域の北部では、秩父古生層と衝上断層を以て接している。南部ではこの間に高津鉄床が生成されている。鉄床は裂罅充填鉄床で外見上層理面に沿うものと断層面に沿うものとある。鉱石は輝安鉄を主とし白鉄鉱・黄鉄鉱・褐鉄・黒鉛を伴う。十津川村アンチモン鉄床の規模は大きく、富鉄部もあり、将来精査し開発計画を確立すべきである。

〔内容目次〕 (1) 沿革, (2) 位置及び交通, (3) 地形 (4) 地質, (5) 地質構造, (6) 鉄床及び鉄床各説, (7) 品位, (8) 埋藏量, (9) 結論及び意見, 附図3葉。

(原口九萬原著 堀越抄録)

加の見込があり、林道の敷設により目下困難な運搬路の問題も好轉の見込がある。

〔新山鉄山(亜鉛・銅)〕 本鉄山は前掲2鉱山と同様含銅石英脈であるが、白雲岩質石灰岩の周辺及び裂罅に生成され、接触鉄物を伴っている。亜鉛を主とし銅は少い。現在認められる鉄量も多くない。

〔加茂鉄山〕 御津郡津賀村 本鉄山は水鉛鉄山として一時重要であつたが、最近珪石を対象として稼行している。鉄区内に鉄床の数も多く、将来性ある場所、探鉄価値ある場所も多い。

〔その他〕 その他の鉄床地とし円城村塩谷旧坑、円城村三納谷附近旧坑(銅・磁硫鉄鉄)、久米郡西川村黒鉛鉄床に就いて記載してある。(塚脇祐次原著 堀越抄録)

山、(4)帯江(銅)鉄山の4鉱山が記載されている。

### 1. 立正鑛石鑛山(御津郡上建部村)

昭和24年より事業に着手、調査当時迄の出鉱量は430t、非常に優良鉱SK36を産して着目される。交通、搬出、労務者の通勤に不便。石英粗面岩中の交代鉱床で2鉱体が判然と知られている。鉱石は葉蠟石を主体としディアスポル、少量のカオリン、鋼玉を含む。各位質別耐火度及び量の割合は次の通りである。

優良鉱	SK>35	15%
上 鉱	SK 33~34	15%
中 鉱	SK 31~32	20%
下 鉱	SK<30	50%

珪化帯を伴い、これが探鉱の目安となる。鉱体は何れも上拡がり塊状の形を示し、夫々10万tの桁である。SK35以上の優良鉱の賦存状況、SK31以上の総量、カオリン質蠟石の陶磁器への利用の可能なりや否やが問題。

なお、精査探鉱を要する。

## 2. 金川黒鉛

昭和23年に本所安齊技官が概査を行つたことがある。鉱床の状態に関しては結論的に当時と同様であるが、探

553.982 : 550.834 (521.41)

## 瀧西油田地震探鉱

これは大分古い調査であるが、未だ印刷されたことがないのでここに要領だけしるす。

調査地…秋田縣南秋田郡瀧西地方

時 期…昭和18年6月5日より同年8月10日迄

方 法…地震探鉱屈折法

調査したのは八郎瀧南西方の寒風山以東の瀧西平野で、同地域は全般的に油徴あり、又同地域南方の海底よりはガスが出ているところもあり、更に拂戸村においては以前に帝國石油により地震探鉱が行われ、一つの背斜構造が推定されている。これらにより分るように同地域には有望な油田構造が考えられるので地震探鉱を実施した。

同地域の地質構造は遠藤六郎氏（現調査所地質部長）

553.41/.43 : 550.8 (521.22) : 622.1.

## 茨城縣久慈鑛山調査報告

〔要約〕茨城縣久慈郡河内村町屋久慈鉱山(金鉱)に就き昭和24年7月、10日間の調査結果の報告である。本鉱山は第三紀礫岩及び古生代角閃岩・片岩中の金銀銅鉱の塊状富鉱部を伴う黄鉄鉱石英粘土脈で、礫岩及び角閃岩古生層中の鉱脈と片岩中の鉱脈とに分かたれる。前者は、

鉱方針に関し具体的意見が明かにされた。

## 3. 佐野鑛山(赤磐郡佐野)

〔要旨〕本鉱山は古生層粘板岩と花崗岩間の接触鉱床で鉛・亜鉛・磁硫鉄鉱よりなり現在磁硫鉄鉱を採掘し日比製煉所へ送つている。

内容目次 (2) 位置及び交通、(1) 沿革、(3) 地質及び鉱床、(4) 現況、(5) 探鉱方針、(6) 意見 附図1葉

## 4. 帯江鑛山(倉敷市早島町)

本鉱山は古く開発せられ、一時は銅山とし栄えた有名鉱山であるが、現在は休山中で、坑道は全部荒廢し状況を知り得ない。地質は古生層粘板岩とこれを貫く石英斑岩脈よりなり、鉱脈の主要なものは4脈あり、北西乃至北々西の走向を示し、鳥羽、(金才)、猿曳、黒崎、金盛等よりなる。

〔内容目次〕(1) 位置及び沿革、(2) 地質及び鉱床、(3) 産額、(4) 探鉱方針、(5) 意見 附図1葉

(原口九萬原著 堀越抄録)

により調べられている。又、私共の調査終了後、故守屋益男氏により重力探鉱が実施された(資料は戦災により焼失)。最近では村上義明氏が脇本村附近において重力測定を実施された。(未発表)

調査の結果、同地域には地表面より順次0.8~1.1 km/sec, 1.55~1.70 km/sec, 1.86 km/sec, 2.10 km/secの各層の存在することが明かとなつた。これら各速度層を同地域の地質層序に対比しうものとするれば、0.8~17.0 km/sec 層は第四紀層に、1.86 km/sec 以上は第三紀層に対応するものと考えられる。結果としては南北に走る2本の背斜軸を推定することができた。

なおこの附近には未だボーリングが実施されていないので、具体的な検討を行うことが出来ない。(早川正巳)

膠質石英脈で鉱染状を呈し、鉱染部では金銀銅品位は低い、富鉱塊はAu品位数10g/t、Cu数%に達する。後者は母岩の緑泥石化作用は著しいが一般に粘土を主とし脈勢は弱い。現在稼行しているものは、角閃岩の角礫状部中のA坑で、高品位の金銀銅塊を伴う鉱染状石英

脈である。

〔目次〕 1 緒言, 2 沿革, 3 位置及び交通, 4 地形,

5 地質, 6 鉱床, 7 品位及び鉱量, 8 産額, 9 結論 附  
図2葉 (佐藤恭)

553. 3/4 : 550. 8 (521. 11) : 622. 1

### 青森縣上北礦山の地質礦床調査報告

(主として奥の沢鉄床の二次富化作用に就いて)

昭和22年8月調査を施行した報告書である。

〔要旨〕 上北鉱山附近の地質は中新統と推定される坪川層(安山岩質緑色凝灰岩・黒色頁岩・両輝石安山岩・角閃石安山岩・細粒閃緑岩)同じく奥の沢層(石英粗面岩類及び同質凝灰岩) そのほか頁岩・石英安山岩及び第四

期層よりなる。鉄床は裂隙充填脈の高森鉄床と黒鉄型交代鉄床の上北鉄床及び褐鉄鉄床よりなる。主要黒鉄鉄床の奥の沢鉄床には典型的二次硫化富化帯が発達している。(科野房三原著 堀越抄録)

553. 435/661. 2 : 550. 8 (521. 11) : 622. 1.

### 青森縣北津輕郡喜良市村大判礦山調査報文

昭和22年10月, 物理探鉄施行箇所選定の目的にて8日間地質鉄床の調査を行った報告である。

〔要約〕 本鉄床地帯は母岩の粘土化は著しい。粘土化部には硫化鉄の鉄梁・網状脈・黒鉄山鉄塊がある。鉄石は硫化鉄を主とし, 閃亜鉛鉄, 稀に重晶石・石膏もある。黒鉄式鉄床で一部に電探及び試錐施行価値ある部が

あるが, 経費の関係上溝掘・探鉄井等に依る精査を先にすべきである。

〔内容目次〕 1. 位置交通, 2. 鉄区範囲, 3. 沿革, 4. 地形及び地質, 5. 鉄床, 6. 探鉄 附図2葉  
(石井清彦・須藤和雄共著 堀越抄録)

553. 3/4 : 550. 8 (521. 16) : 622. 1

### 福島縣南會津郡一部地質礦床調査報告

昭和22年10月に福島縣南會津郡伊北村北部大沼郡横田・川口・本名及び昭和村等只見川沿岸地域中の一部の鉄床調査を行った報告である。

〔要約〕 調査したのは黒沢・餅井戸・御前・田代・横田・金石・館の沢・玉梨・松山・湯倉各鉄山で, 主として緑色凝灰岩層中の黒鉄式鉄床である。上の中黒沢鉄山は石膏採掘稼行中, 金石鉄山は探鉄継続中, その他は何れも休山中であった。

〔内容目次〕 1. 調査地域, 2. 交通, 3. 地形, 4. 地質, 5. 地質構造, 6. 鉄床概説, 7. 鉄床各説, A. 黒沢鉄山, B. 餅井戸鉄山, C. 御前鉄山, D. 蒲生附近の探鉄地及び露頭, E. 田代鉄山, F. 横田鉄山, G. 金石鉄山, H. 館の沢及び玉梨鉄山, I. 松山鉄山, J. 湯倉鉄山, K. 鉄泉及び温泉, 8. 結論並に開発に対する意見 附図6葉。(早川典久原著 堀越抄録)

553. 613 : 550. 8 (521. 72) : 622. 1

### 滋賀縣鑛産資調査報告 (信樂町附近柞原長石)

滋賀縣廳の依頼により, 同縣鑛産資源調査の一部として柞原長石の調査を滋賀縣大阪商工局及び当所が協力して行った(昭和23年9月)。

〔總括〕 柞原長石鉄床は滋賀縣甲賀郡小原村と朝宮村境附近にあり, 中垣鉄山及び朝宮鉄山によつて採掘されている, 鉄床は, 優白質黒雲母花崗岩が中垣鉄山では走向60°西, 傾斜北50°内外の龜裂に沿つて溶液の上昇に

よつて変質作用をうけて生じたものである。従つて少量ではあるが, 新鮮な雲母を含有し, これを除去することは困難であるから, 白色陶磁器の素地又は釉薬として使用することは都合が悪い。然し着色する陶磁器の素地及び釉薬として使用することは差支えない。この鉄床の予想埋藏量は中垣鉄山採掘所附近で2.25万噸, 同鉄山旧採掘所附近で0.60万噸で, 朝宮鉄山採掘所附近3.20万

産、計6.05万産である。採掘所が道路に極めて近いから、山元から直ちに牛馬車を利用して小原村中野、信楽町及び信楽駅に搬出することが出来る。この附近にはこ

れらの鉱床と同様なものが処々にあり、これに対して調査する必要がある。

なお鉱石の分析値は次の通りである。

鉱山名	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	MgO	TiO <sub>2</sub>	MnO	K <sub>2</sub> O	Na <sub>2</sub> O	Ig.loss	Total	備 考
朝 宮	76.87	13.04	0.33	0.97	0.15	0.14	0.04	3.98	4.23	0.49	100.14	微灰白色僅かに黒雲母がある。吸濕性なし。
中 垣	75.54	13.83	0.20	0.85	0.19	0.14	痕跡	4.2	4.34	0.79	100.08	吸濕性認められる。

陶磁器試験所 分析

(河合正虎・矢崎清貫)

553. 61 : 550. 8 (522. 5) : 622. 1

熊本縣一勝地村江上鑛業所ハロイ石鑛床概査報告

〔要約〕 本鉱床は安山岩中の裂罅を充填したハロイ石脈である。現在稼行中の清水谷鑛は走向延長約120m、傾斜延長約20mが判明しており、その幅は0.1~1.5mに達する。

鉱石はハロイ石のみから成るが、塊状のハロイ石から成る塊状鉱・角礫化したハロイ石を混入する混合鉱・粘土。母岩の破片等を比較的多量に混入する粘土鉱に分け

られる。

塊状鉱・混合鉱は焼成試験の結果、陶磁器原料に適し、粘土鉱は耐火物原料に適するものと思考する。

確定鉱量は約1,000 ton、推定鉱量は約3,000 tonで、塊状鉱、混合鉱の賦存率は夫々約30%、粘土鉱は約40%であろう。(1948. 3. 10) (和田利雄)

553. 44. 065. 2 : 550. 8 (522. 2) : 622. 1

長崎縣對州鑛山鉛・亜鉛鑛床調査報告

昭和22年9月調査を行つた報告である。長崎縣下縣郡佐須村檜根にある對州鉛山は、鉛亜鉛鑛床で粘板岩中に胚胎し、磁硫鉄鉱を伴う中熱水性交代鉱床である。鉱体は一般に板状をなし、相互間は粘土化した目で連絡される。鉱石鉱物は閃亜鉛鉱・方鉛鉱・磁硫鉄鉱・黄鉄鉱・

黄銅鉱等である。内容目次の通り。1 緒言、2 沿革及び現況、3 位置及び交通、4 地形及び気象、5 地質、6 鉱床、7 品位及び鉱量、8 稼行状況、9 産額、10 結論、附図2葉。

(伊藤昌介)

553. 43 : 550. 837/838 (521. 85)

山口縣福重鑛山調査報告

〔内容目次〕 1 緒言、2 沿革、3 位置及び交通、4 地形、5 地質、6 鉱床、7 鉱量及び品位、8 物理探鉱成果、9 現況、10 結論及び意見、附図9葉。

〔要約〕 福重鉛山は、山口縣美彌郡於福村・大嶺町にまたがって位置する。鉱床は石灰岩又はホルンフェルス中に胚胎し、英雲閃綠岩を運鉱岩とする高熱交代鉱床で、磁鉄鉱を主とし、銅の二次富化帯を伴う。然し磁鉄鉱は

採取せず、銅鉄のみを採掘する。

この鉱床に対して、地質的に見て新鉱体発見が可能であると思われるので、磁気探鉱及び自然電位法を実施した結果、現坑道を中心とする区域及びそのほぼ北方の3区域に異常を認めた。(昭和23年2-4月調査)

(濱野一彦)

553. 673 : 550. 8 (523. 5) : 622. 1

高知縣森村解地滑石鑛床概査報告

解地滑石鉱床は高知縣土佐郡森村に在り、土讃線大杉駅から約36 km余、大杉から途中28 kmは乗合自動車を通ずるが、現地は山岳に圍繞され交通至つて不便である。鉱床は数脈あるがなお露頭を剥脱した程度で、正確の鉱量を計算することは出来ないが、2万産以上は予

想し得る。鉱業権は日之本物産株式会社から申請中であるが、鉱石の運搬、開采に要する資材等一切の設備はこれを有しないので簡単には鉱石を搬出することは出来ない事情にある。(昭和23年8月)(坪谷幸六)

## 北海道精進川鑛山及び雨鱒川鑛山の硫黄並びに褐鐵鑛床調査報告

(本地域の地質鑛床は25年度も引続き調査予定である。依つて本報告の詳細は後に印刷する事とし、概要を記す)。

目次, 1 緒言, 2 鑛区, 3 位置及び交通, 4 沿革及び現況, 5 地形, 6 地質, 7 鑛床鑛及び鑛石, 8 品位及び鑛量, 9 結語, 附図3葉。

〔要約〕 両鑛山附近は洪積世に津岳より噴出した集塊岩・凝灰岩及び兩輝石安山熔岩よりなる。両鑛山の硫黄

或いは硫化鉄鑛床は共にこれらの熔岩を母岩として、鑛染交代したもので、褐鐵鑛床がその上部に堆積している。精進川鑛山では現在硫黄鑛床のみが採掘されている。鑛床は不規則な形であるが大體偏平なもので、鑛石は暗灰色或は黄白色で品位39~49% S。雨鱒川鑛山は専ら褐鐵を採掘し第1, 第2鑛床がある。今後の発展は雨鱒川方面に期待される。(猪木幸男, 堀越要約)

## 熊本縣葦北郡佐敷町苦灰石調査報告

〔要約〕

1. 苦灰石鑛床は二疊石炭紀の石灰岩を交代して生成したもので石灰岩中に北70~80°東の方向に幅10~15mの間に膨縮或いは断続し2, 3のものが分岐或いは交叉して延長250mに及ぶ。

2. 鑛量として莫大な量は期待し難く、推定鑛量としてMgO 17%以上の上鑛21,000 ton, MgO 17%以下の中鑛21,000 tonを得た。

3. 運搬條件は極めて良好であるが採掘條件は将来は

悪くなるものと予想される。

4. 会社側では月3,000 tonの生産計画を樹てているが需要及び鑛量の点より一應月500 ton~1,000 tonの計画により採探鑛し、苦灰石の賦存状況及び鑛量を明白に把握せねばならない。

5. 苦灰石の採掘には相当量の石灰岩のズリが伴うものと思われるので、石灰の自家製造用としてこの石灰岩の利用を考えなければならぬ。(濱地忠男)

## 岡山縣菅田郡下地下資源調査報告

〔要旨〕 昭和24年7月表題郡下を広範囲に概査を行つた結果報告である。地質は北部は花崗岩類が広く分布し、南部は古生層、中生層、新第三紀層が露出している。鑛床は主として花崗岩及び古生層中に胚胎し、金属鑛床は裂罅充填鑛床で、断層・節理・片理等に沿い、鑛石は黄鉄鑛・黄銅鑛・方鉛鑛・閃亜鉛鑛等が共生するのが普通である。

非金属鑛床としては陶土・絹雲母が花崗岩中に、珪石は古生層中に、螢石は角礫質石英粗面岩中にそれぞれ胚胎する。

鑛床分布より考えて郷村より、田邑村に至る地帯が今後探鑛の対象としてとりあげられる価値がある。個々の鑛床のうち探鑛により新鑛床の発見可能と考えられるのは、室生(銅)・神樂尾(銅)・一ノ宮(銅)・芦谷(銅)・土生(銅)・三子原(硫化鉄)・奥津(陶土)の諸鑛山である。

内容目次 1. 緒言, 2. 要約, 3. 調査地域, 4. 調査

地域の地形, 5. 一般地質, 6. 鑛床, 7. 鑛山各説, a. 津山市附近(螢石), b. 田邑村附近, 神樂尾鑛山(銅), 試登第4419号鑛区(銅その他), 成光鑛山(銅), c. 一ノ宮村, 中山鑛山(銅), 一ノ宮鑛山(銅, 鉛, 亜鉛), 金山鑛山(亜鉛), 東田辺附近(黄鉄鑛), 試登第4994号鑛区(銅, その他), d. 高田村真名附近(銅, その他), 試登第4386号鑛区(硫化鉄, その他), e. 芳野村室生鑛山(銅), f. 郷村金山鑛山(銅), g. 大野村大野鑛山(珪石), h. 香々美南村栲形鑛山(硫化鉄, その他), i. 中谷村芦谷鑛山(銅), 大成鑛山(銅), j. 久田村銅銕鑛山(銅), 土生鑛山(銅), 草谷鑛山(銅), k. 香々美北村香々美鑛山(銅), 香々美北鑛山(銅), l. 泉村養野鑛山(銅, その他), m. 奥津村三子原鑛山(硫化鉄), 上斎原附近(硫化鉄), 細田附近(銅), 長藤附近(鉛, 亜鉛), 大釣附近(不詳), 三子原附近(絹雲母), 奥津(陶土), 8. 結論, 附図坑内見取図等31葉。

(濱野一彦, 福井三郎, 堀越抄録)

553. 41/.43 : 550. 8 (524) : 622. 1

### 北海道伊達鑛山調査報告

北海道胆振國有珠郡伊達村気門別の伊達鉦山(金, 銅)を昭和22年11月調査した報告書である。緑色凝灰岩層下部の石英安山岩, 同質角礫凝灰岩及び凝灰岩中の黒鉦式鉦床である。鉦床は可成り性質を異にする多数の小鉦

床より成り, 気門別川北岸沿いに分布して居る。

内容 1. 緒言, 2. 鉦区及び所在, 3. 沿革及び現況, 4. 位置交通, 5. 地形, 6. 気候, 7. 地質, 8. 鉦床, 9. 鉦石及び鉦量, 10. 鉦物, 11. 結語。(石橋正夫, 堀越抄録)

553. 43 : 550. 8 (523. 4) : 622. 1

### 愛媛縣大久喜鑛山銅鉦床概査報告

昭和23年5月下旬, 筆者は本鉦床を概査した。

〔鉦区位置〕 愛媛縣喜多郡五十崎町古田甲一番地。

〔鉦区番号〕 愛媛探登第196号。

〔鉦業権者〕 昭和鉦業 K. K.

四國背梁山脈の西端近くに存在する大久喜鉦山は, 四國の他の多くの含銅硫化鉄鉦床と異り, 輝緑岩及び輝緑凝灰岩を母岩としている。層状をなさず, 東西に走る2本の背斜軸に沿つて「いも状」の鉦体が群つていてと解釈されている。品位は比較的良好, Cu 5~7%を保つて

来た。戦時中月産1,500tの出鉦を見たが, 調査当時は月産350t程度に下つていた。増産の爲には, 今後大いに探鉦の必要が痛感されるが, その方針としては, 新しい東西方向の背斜軸の存在を確かめること及び現在の鉦床の西方及び東方への延長を探る事が第一である。なお引き続き精査が行われる事になつている。

〔内容〕 1. 緒言, 2. 鉦区関係, 3. 沿革, 4. 位置及び交通, 5. 地質及び鉦床, 6. 品位及び鉦量, 7. 操業概況, 8. 結語, 附図4葉。(築池徹)

553. 31/.661 : 550. 8 (524) : 622. 1

### 北海道白老鑛山の硫黄及び鐵鉦床調査報告

胆振國白老郡白老村の白老鉦山(硫黄)を昭和23年7月調査せる報告である。新第三紀末期の両輝石安山岩質熔岩と同質の凝灰岩・角礫凝灰岩・集塊岩質熔岩より成り, 種々の変質作用を蒙り, 硫化鉦鉦染地帯が多い。硫黄及び褐鉄鉦床が各所に散点する。

主として採掘された硫黄鉦床は赤川山北西部約500m間外の地点のもので, その北西及び南西に夫々新坑・旧

坑があるが現在は殆んど廃坑状態にある。A鉦床が現在採掘の対象となつているものであつて, 安山岩を鉦染交代したレンズ状体である。今後の探鉦結果を期待し得る。

〔目次〕 1. 緒言, 2. 鉦区, 3. 位置及び交通, 4. 沿革及び現況, 5. 地形, 6. 地質, 7. 鉦床及び鉦石, 8. 鉦石の品位及び鉦量, 9. 結語, 附図4葉。(猪木幸男, 堀越抄録)